Fora 6 (2023): 39-60

『天気の子』の英語吹替における日本語版との差異について

森田 真登

1. はじめに

日本のアニメは外国でも楽しまれており、英語吹替がなされている作品も多数存在する。そのような英語吹替においては、「文化意訳(culturally coherent translation)」(井上 2017: 107)と呼ばれる、日本的なセリフを英米圏の人たちから見て自然と思われるセリフに意訳したものがみられることがある。

アニメの翻訳研究はこれまでもなされており、山田（2004）、山田(2005)、Adachi（2012）では、宮崎駿監督の作品における日本語オリジナルと英語吹替の差異を詳細に分析している。篠原(2018)では、『千と千尋の神隠し』の英語字幕における異文化要素の訳出について考察されている。安井(2021)は同作品を用いて、役割語やキャラクター言語がどのように翻訳されているのかを調査している。保坂ほか(2019)、保坂・島田(2022)は、『君の名は。』の字幕翻訳における受容化について論じている。嶋津ほか(2019)では、同作品で用いられている様々な一人称単数代名詞に注目し、それらが複数の外国語字幕においてどのように翻訳されているのかを調査している。また、嶋津ほか(2020)においては、同作品の役割語について論じている。

本論では、『君の名は。』の大ヒット以降、世界的にも注目が高まっている新海誠監督の作品から、2019 年に公開された『天気の子』(英題 *Weathering With You*)を取り上げ、日本語オリジナルと英語吹替を比較し、そこにみられる「文化意訳」について考察をしたい。なお、この作品の英語字幕を、英語教育の視点から論じたものとして田中(2021)がある。今回はこれまで分析対象とされていない本作品の英語吹替を用い、井上(2017)によって新たに提案された四つのカテゴリーに基づいて日英両バージョンにみられる差異を分析する。

2. 先行研究

井上(2017)では、ポライトネス理論の枠組みを用い、「①連帯から独立訳へ」「②スピーチアクトの対照」「③事態把握の違い」「④ゼロ対応」という四つのカテゴリーで、日本映画の英語字幕・吹替訳を分析している。本論文では、井上の枠組みに基づき、分析を行うことにする。調査に先立ち、この四つのカテゴリーについて概観する。

①連帯から独立訳へ

まず、Brown and Levinson(1987)のポライトネス理論について、井上

(2015: 184-200)に基づいて概観する。Brown and Levinsonでは、面目(face)という概念が用いられる。面目にはpositive face(積極的な面目、連帯の面目、連帯の願望)とnegative face(消極的な面目、独立の面目、独立の願望)の二つがある。前者は「人によく思われたい、人と仲良くしてもらいたいという願望、つまり人との連帯を得たいという願望」であり、後者は「人に邪魔されたくない、何かを強制されたくないという願望、つまり自らの独立性を保ちたいという願望」である(井上 2015: 185)。これらの二つの願望のどちらが重視されるのかについて、井上(2015: 196)は「独立の願望と連帯の願望は基本的にはどの文化に属する人でも持っていると考えてよいだろう。しかし、同じような状況でもある文化においてはどちらか一方が強く働いたり、文化によってそれぞれの願望の表れ方が異なったりする」と指摘している。

発話は、面目を脅かす行為(Face Threatening Acts、FTA)という側面があり、面目を脅かさないために、ポライトネスの方略(politeness strategy)が用いられる。ポライトネスの方略には、連帯の面目を尊重する連帯のポライトネス方略と、独立の面目を尊重する独立のポライトネス方略の二種類が存在する。

positive politeness strategy(連帯のポライトネス方略)…連帯の面目に対する方略
(1) 対話者への関心の表示
(2) 話者間の共通点(共通の基盤)への言及
(3) 無遠慮な関係を強調　（井上 2015: 188）

negative politeness strategy(独立のポライトネス方略)…独立の面目に対する方略
(1) 押し付けない
(2) 距離を置く
(3) 形式的に振る舞う　（井上 2015: 191）

ここでは、独立のポライトネス方略の具体例として、次の英文を見てみたい。

(1a) Open the door.
(1b) Will you open the door?　(井上 1999: 74)

(1a)では命令文が用いられているが、(1b)においては、独立のポライトネス方略として、命令文ではなく、疑問文の形式が選択されている。(1b)は「相手は少なくとも形式的にはその依頼(request)に従うか否かの選択の余地を与えられており、押しつけ(imposition)がそれだけ弱く、相

手の独立性に気づかう言い方」である(井上 1999: 74-75)。

井上(2017: 113-15)は、英米アングロサクソンの文化は、ファーストネームで呼ぶという慣習のように連帯的な側面がある一方で、“Would you like...?”のような間接的な表現が用いられることから分かるように、相手の独立の願望に配慮する側面もあるとし、アングロサクソン文化では独立の願望に対する配慮への要求度が日本よりも高い可能性があると指摘している。また井上(2015: 199)は、英米の人に対して抱かれることがある「自己主張が強い」というイメージについて、独立の面目の観点から説明をしている。アングロサクソン文化においては、互いが互いの独立を尊重するので、相手だけでなく自分自身の独立も守られることになり、そのため、自分の考えを表明することに抑制がかかりにくいのである。

一方で、日本の文化においては、エンパシー(empathy)が重要視される。エンパシーとは「思いやり」など相手の立場に立って考えることを指す。こうした「思いやり」は、独立を尊重するアングロサクソン文化では、相手の独立の領域への侵害となる(井上 2015: 199)。

アニメの英訳では、日本語のエンパシー的なセリフが、独立の面目へ配慮したセリフへと変えられることがある。一例として、『千と千尋の神隠し』における、先輩のリンが千尋に対して助言をする場面を見てみよう。英語版では「私なら行かない」という相手の独立の面目に配慮をしたセリフへと変えられている。

(2)
いまカマジイのとこ行かねえ方がいいぞ
I wouldn’t go to Kamajii now. (井上 2017: 117)

②スピーチアクトの対照

スピーチアクト(言語行為、speech act)は Austin(1962)、Searle(1969)によって提案された。井上(2015: 167)は「あらゆる発話は条件を満たせば、すべて行為を遂行していると見ることができるだろう」と説明している。スピーチアクトには以下のようなタイプがある。なお、遂行動詞(performative verb)が明示される場合は次のようなものが用いられる。

i. 陳述描写型 (Representatives)
affirm, conclude, report など
ii. 行為指示型 (Directives)
advise, request, order など
iii. 行為拘束型 (Commissives)
promise, swear, pledge など
iv. 態度表明型 (Expressives)

apologize, congratulate, thank など
v. 宣告命名型 (Declarative)
appoint, pronounce, declare など (井上 2015: 168)

日本語から英語の翻訳で典型的なものが、日本語の陳述型(陳述描写型、representatives)が、英語翻訳では行為指示型(directives)に変えられるというものである。例として、映画『紅の豚』からのセリフを見てみよう。

(3)
じゃまだな
Move! (井上 2017: 118)

(4)
うるさいな
Will you shut up! (井上 2017: 118)

一方で、日本語では行為指示型のものが、英語翻訳では陳述型に変えられるというものがある。先ほどの(2)においても、日本語オリジナルでは「いまカマジイのとこ行かねえ方がいいぞ」という行為指示型のセリフが、英語版では“I wouldn’t go to Kamajii now.”という陳述型に変わっている。ほかにも次のような例も挙げられる。

(5)
この仕事やめた方がいいよ
This isn’t the place. (井上 2017: 118)

このような例について井上(2017: 118)は「日本語での助言のスピーチアクトはしばしば間接的な言い回しの陳述型に英訳されるものが多い」と指摘し、その理由について「助言は基本的に相手の独立の領域に踏み込むものなので、アングロサクソンの文化ではタテマエ上、回避に向かう傾向があり、英訳では独立の侵害を避ける陳述型になることが多い」と述べている。

③事態把握の違い

日本語から英語へ文化意訳が行われる要因として、事態把握(construal)(池上 1981, 2006, 2007, 2011a, 2011b, 2020)の異なりも挙げられる。池上(2006: 157)は「ある事態の把握に際して話し手がいくつかの可能な選択肢のうちのどれをもっともふつうに選ぶかということになると、異なる言語の話し手の間で選択の好みが違うという事がしばしば

起こる」と述べている。

ここでは事態把握の異なりの一例として、池上の「主観的把握・客観的把握」を概観する。

> 〈主観的把握〉: 話者は問題の事態の中に自らの身を置き、その事態の当事者として体験的に事態把握をする—実際には問題の事態の中に身を置いていない場合であっても、話者は自らがその事態に臨場する当事者であるかのように体験的に事態把握をする。
> 〈客観的把握〉: 話者は問題の事態の外にあって、傍観者ないし観察者として客観的に事態把握をする—実際には問題の事態の中に身を置いている場合であっても、話者は(自分の分身をその事態の中に残したまま)自らはその事態から抜け出し、事態の外から、傍観者ないし観察者として客観的に(自己の分身を含む)事態を把握する。
>
> (池上 2011a: 52)

具体的な用例を見てみよう。

(6)〔道に迷って人に尋ねるときに〕
a. Where am I?
b. ここはどこですか。 (池上 2006: 163)

日本語では主観的把握がなされており、「話者自身は観察の原点として話者自身の視野に入ら」ない(池上 2011b: 320)。そのため、「私」は言語化されていない。一方、英語では、客観的把握がなされており、他人の居場所を聞く "Where is she?"と同じ構文の "Where am I?"を用いていることから分かるように、「英語の話し手は、いわば自分から抜け出して、迷っている自分のことをあたかも誰か迷っている他人を見ているかのように客体化してとらえている」(池上 2006: 183)。この例のように、日本語話者は主観的把握を好み、英語話者は客観的把握を好む傾向がある。

なお、この用例と同じセリフが、今回分析をする『天気の子』においても見られている。

(7) [1:15:13]
陽菜：ここって…。
Hina：Where am I?

もう一つ具体例を見てみよう。川端康成の小説『雪国』の冒頭の日本語原文と英語翻訳においても、日本語と英語の事態把握の差異を読み取ることができる。

(8)
a. 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。
b. The train came out of the long tunnel into the snow country.
(池上 2011a: 55)

この箇所にみられる事態把握について、池上は次のように述べている。

> …原文が〈主観的把握〉(つまり、語り手は汽車に乗って移動している主人公に視点を合わせ、汽車の移動に伴って汽車の中から見える外の情景がどのように変化していくかを体験的に語るという構図）であるのに対して、英語訳では〈客観的把握〉(つまり、話り手は汽車の外に身を置いて― 'came'という語が暗示しているように―トンネルを出て自分の方へ向かって進んでくる汽車を眺めているという構図）に捉え直され、言語化されているというわけである。汽車の中にいる主人公に同化した語り手にとっては汽車そのものは視野に入らず、従って言語化されていないが、汽車の外に身を置く語り手にとっては汽車は観察の対象になり、従って言語化されている。
>
> (池上 2011a: 56)

次に、国広(1974a, 1974b)による、英語は「人間中心」であり、日本語は「状況中心」の傾向があるという主張についても概観しておきたい。国広は、フランス語が原文のテキストに基づいて作成された、日本語翻訳と英語翻訳を用いた調査を行った。

(9)
Poliment: Vous avez reçu ma carte?
Did you receive my card?
ぼくのはがき、着きましたか。 (国広 1974a: 688)

(10)
J'ai changé d'adresse.
I've moved.
住所が変わりました。 (国広 1974a: 689)

(11)
Les ouvriers de l'usine se sont de nouveau mis en grève.
The workers at the factory have gone on strike, again.
また、あの工場ではストライキが始まった。 (国広 1974a: 689)

国広(1974b: 47)は、これらの英訳と日本語訳の比較を通して、「英語では人間を中心に据えて、その人間が何か活動したり認識したりする形を取っているのに対して、日本語では、そのような人間は背景に後退しており、その場面の状況をとらえて表現するという形を取る」と指摘している。

④ゼロ対応

翻訳をする際に、日本語オリジナルにあるセリフをあえて訳出しなかったり、逆に、日本語版ではセリフのない箇所に吹替でセリフをいれたりすることがある。このような事例のうち、事態把握の違いとは異なると考えられるものを便宜的に「ゼロ対応」と分類する。この「ゼロ対応」のうち注目すべきものとして、「日本語の非対話」が挙げられる。井上(2017: 120)は、「日本の映画のやりとりではしばしば対話が成立しているようにみえて、対話になっていないことがある」と述べ、このような対話が成立していない箇所は英語話者にとっては不自然に映るため、相手のセリフに応答するセリフが吹替で追加されることがあると指摘している。

例えば、『魔女の宅急便』でおソノさんのパン屋にやって来てパンを買った二人の客を見送る際に、おソノさんが声をかける場面では、英語版では次のように日本語オリジナルにはないセリフを補うことで、対話を成立させている(井上 2021: 192)。

(12)
おソノさん：気を付けてね。
客：(無言)

Osono：Come back again.
Customer：Thanks.
Customer：Of course.

3. 調査

本章では『天気の子』の日本語版と英語版について、「①連帯から独立訳へ」「②スピーチアクトの対照」「③事態把握の違い」「④ゼロ対応」という四つの観点から比較を行う。なお、それぞれの引用には英語版 Blu-ray に収録されている英語吹替における用例がみられた時間を添えている。

3.1. 連帯から独立訳へ

本作品においても、英語吹替において、日本語オリジナルよりも独立の面目に配慮した翻訳になっていると考えられる用例がみられている。

(1) [55:40]
凪：帆高、姉ちゃん送ってって。
Nagi：Hodaka, can you take Hina home?

日本語オリジナルでは、疑問文の形で聞いておらず、相手にその行為を押し付けているが、英語版では 疑問文の“Can you …?”を用いることで、断ることができる余地を残しており、相手の独立に配慮した言い方になっている。
次も同様の用例である。

(2) [52:25]
萌花：パパ、今のもう 1 回やって、もう 1 回！
Moka：Daddy, can you do it one more time?

須賀の娘である萌花が、両手をもって体を空中で回してほしいとお父さんに甘えている場面である。日本語の感覚からすると、単に “Do it one more time.”という命令文でもよさそうに思われるが、ここでも対応する英語版では“Can you …?”という疑問文の形で聞いており、相手が断る余地があるという点でより独立に配慮した翻訳となっている。井上(2021: 150-51)が指摘するように、英米文化では、だだっ子はかわいいとは見なされず、たとえ親に対してであっても独立を尊重した言葉遣いをしないといけない。

(3) [48:25]
〔瀧に年齢について聞かれ、陽菜の年齢について〕
帆高：あっ、そういえば、来週で 18 になるって。
瀧：誕生日、プレゼントあげなきゃだね。

Hodaka：She mentioned that she was turning 18 next week.
Taki：18, huh? Have you thought about what to get her?

「誕生日、プレゼントあげなきゃだね」と助言する瀧の発言は、瀧は帆高より年上であり、日本語話者にとっては違和感のないセリフであろう。しかし、英語吹替では、帆高に対して助言をするのではなく、あくまで帆高自身がプレゼントをあげることを考えているのかどうかを問う疑問文に変更されており、相手の独立に配慮した言い方になっている。
ここまで、疑問文の形で問うことで、相手の独立に配慮をしている用例を見てきた。次の用例においては、日本語と英語版のセリフで大幅な改変がされているが、なぜこのような訳をしているのかについても、こ

れまで見てきた用例と同様に説明付けができる。

(4) [1:10:35]
〔焼きそばを食べている帆高に対して、カレーを食べている陽菜が〕
陽菜：帆高、そっち一口ちょうだい。
帆高：うん。

Hina：Hodaka, you want to try some of mine?
Hodaka：Mm.

この箇所においては、陽菜のセリフの内容そのものが大きく変えられている。日本語オリジナルにおいては、陽菜が帆高の食べ物を食べたいと述べている。一方で、英語吹替においては、陽菜が、帆高の食べ物ではなく自分自身の食べ物を帆高に食べてみないかと提案している。これまでと同様に、独立という観点から、日本語オリジナルのセリフを眺めてみたい。日本語オリジナルのセリフをそのまま翻訳すると、帆高に対して食べ物をくれるようにと強いていることになってしまい、英語話者にとっては独立の侵害と考えられる。そのため、吹替においては、画面上で二人がお互い食べているものを渡しあっている映像に合わせて、違和感のないように、相手の独立を侵害しないセリフへと変えていると考えられる。“You want to try …?”は先ほどの(1)-(3)と同じように疑問文の形式になっており、相手の意向を問うており、相手の独立を尊重した発言になっている。

(5) [1:22:45]
〔凪が警察に補導されたと聞いて、心臓がドキドキしていると言いながら〕
カナ：凪君、ちょっと触って確かめてみてよ。
Kana：Nagi, if you touch my chest, you can feel it.

小学生の凪とその友達の女の子のやり取りである。この用例においても、英訳では日本語の直訳はなされていない。この用例においては、これまでの用例とは異なり、“Can you …?”などの疑問文を用いた間接的な言い方へと翻訳をするという手段もとられていない。“Can you …?”という慣習化された表現は、ふつう聞き手も「依頼」と捉えるので、間接的な言い方である“Can you …?”さえも避けたと思われる。ここでは“if”を用いて「もしも触ったら、心臓がドキドキしているのを感じることができるよ」と翻訳することで、聞き手にとっては必ずしも「依頼」であると解釈しなくてよいという余地を残しており、より独立に配慮したセリフになっていると考えられる。

(6) [34:07]
〔初めて晴れ女の仕事に行く陽菜のために持ってきた傘を差しだしながら〕
帆高：陽菜さん、使って下さい。
Hodaka：Here. I brought you this.

日本語オリジナルでは、「使ってください」となっており、相手に傘を使うことを押し付けているという点で相手の独立を脅かすことになる。英語版では "I brought you this."という言い方になっているので、話者は傘を持ってきたということは述べているが、それを使うようには言っていない。傘を実際に使うかどうかの判断が聞き手にゆだねられているという点で、英語版はより独立に配慮した言い方であるといえるだろう。

(7) [1:00:53]
須賀：お前さ、明日実家に帰れよ。
Suga：If I were you, I'd head back home tomorrow.

家出をしていた帆高を、自分の会社に住み込みで働かせてあげていた須賀のもとに、警察がやって来たことをうけて、帆高に実家に帰ることを説得している場面である。須賀は帆高よりもずいぶん年も離れた大人であり、そのような二人の上下関係や、警察が来たという状況の深刻さをふまえても、日本語のセリフは日本語話者にとっては違和感のないものであろう。しかし、対応する英訳では「私だったら明日実家に帰る」と変えられており、相手の独立を尊重するセリフになっている。

3.2. スピーチアクトの対照

3.2.1. 日本語 陳述型 → 英語 行為指示型

次の用例では、日本語版では陳述型のセリフが、英語翻訳では行為指示型になっている。

(8) [27:52]
〔タブレットの画面を指さしながら〕
夏美：ねえねえ、ちょっと、すごいよこれ！
Natsumi：Oh, my God. Come look at this.

(9) [40:58]
陽菜：君、真面目だねえ。
Hina：Lighten up a little.

次の(10)、(11)では、日本語版の陳述型のセリフに対して、英語吹替ではオリジナルにない“Take it.”や“Careful.”という単語を追加することで、行為指示型のセリフとなっている。

(10) [11:27]
〔ポタージュを飲んでいる帆高に、店員の陽菜が注文していないハンバーガーを渡して〕
陽菜：あげる、内緒ね。
帆高：えっ？でもなんで？
陽菜：君、3 日連続でそれが夕食じゃん。

Hina：It’s for you, but don’t tell.
Hodaka：Uh, but wh-what for?
Hina：Take it, unless you want to have chowder for dinner again.

(11) [1:05:55]
夏美：なーんか、圭ちゃんもすっかりオジサンだよね。
Natsumi：Careful. You’re starting to act like an old man.

(10)において、日本語オリジナルでは、「3 日連続でそれが夕食じゃん」というセリフだけで、「だからこのハンバーガー食べていいよ」という含みを表現しているが、英語では“Take it.”という直接的な言い方となっている。

(12) [51:25]
凪：だから姉ちゃんにはもっと青春っぽいことしてほしいんだよね。まあ、帆高でいいのかはわかんないけどさ。
Nagi：So that’s why I want to see her get to do more teenage stuff. But you are gonna have to prove you’re the guy for the job, okay?

凪が「まあ、帆高でいいのかはわかんないけどさ」と帆高に拳を差し出しながら言う場面である。そして、凪のその言葉をうけて帆高も拳を差し出し、二人が拳を合わせる。凪の拳を出すしぐさをふまえると、このセリフは文字通りの意味ではなく、「姉ちゃんは帆高にまかせたよ」という気持ちが込められていることが分かる。あくまで日本語でははっきりと言わず間接的に姉である陽菜と帆高の恋が実るように応援している場面であるが、対応する英語版では、“you are gonna have to prove ….”という直接的なセリフに変わっている。

3.2.2. 日本語 行為指示型 → 英語 陳述型

次の用例のように、日本語版で行為指示型が用いられている箇所が、対応する英語吹替では陳述型となっていることがある。これらの用例では、行為指示型ではなく、陳述型に変えることによって、相手の独立の侵害を避けている。

(13a) [34:07]
帆高：陽菜さん、使って下さい。
Hodaka：Here. I brought you this.

(14a) [1:22:45]
カナ：凪くん、ちょっとさわって確かめてみてよ。
Kana：Nagi, if you touch my chest, you can feel it.

(15a) [1:00:40]
須賀：もううちには来ないでくれ。
Suga：I can’t have you coming back to the office.

(16a) [1:00:53]
須賀：お前さ、明日実家に帰れよ。
Suga：If I were you, I’d head back home tomorrow.

なお、英語版 Blu-ray には、English for the deaf and hard of hearing と English for original language version の二種類の英語字幕が収録されている。前者は耳が不自由な方に向けて英語吹替のセリフ通りの字幕が付けられている。後者は、メニュー画面で音声を日本語に設定した際に自動で選択される字幕であることから、英語話者が日本語音声で見る際の字幕ということを想定して作られたものであると考えられる。

ここまで見てきたように、(13a)-(16a)においては、日本語の行為指示型が英語版では陳述型に変えられていたが、同様の箇所を英語字幕(English for original language version)ではどのように翻訳されているのかを見てみよう。

(13b) Hina, please use this.

(14b) Here, feel it, Nagi!

(15b) Don’t come back to the office.

(16b) Go back home tomorrow.

このように英語字幕(English for original language version)では日本語オリジナルの行為指示型のセリフをそのまま行為指示型で翻訳している。つまり、この Blu-ray に収録されている英語字幕(English for original language version)においては、日本語のセリフに比較的忠実な翻訳がなされているといえる。一方、吹替の翻訳においては文化意訳をすることで、英語話者にとって自然なセリフへ変えるという翻訳方針がとられていることが分かる。

3.3. 事態把握の違い

3.3.1. 主観的把握・客観的把握

次のように、日本語では主観的把握をしているセリフが、英語版では客観的把握をするセリフへと変わっているものがある。

(17) [26:37]
ママ、お魚。
Mommy, I saw a fish.

(18) [26:52]
何もねえじゃん。
What am I looking at?

日本語版においては、(17)も(18)も観察の原点である話者自身は、自身の視野に入らないため、言語化されていない。一方で、英語吹替では、事態の外に身を置く観察者として、自己の分身を含む事態を把握しており、話者自身は I として言語化されることになる。

(19) [1:10:00]
帆高：そして、その果てに君がいたんだ。
Hodaka：And at the edge of it, I found you.

日本語版においては、話者の帆高の視野の中には君（陽菜）しか映っていないので、陽菜を見ている帆高自身は言語化されていない。一方で、英語においては、客観的把握がなされており、話者の帆高自身も I として言語化されている。なお、動詞 find を用いた類例として、以下のようなものもある。

(20) [1:23:48]
〔警察署から逃げ出した帆高を探して、須賀の会社まで来た警察官に対して〕

須賀：誰もいませんよ。
Suga：You're not gonna find him down there.

次の(21)-(23)では、日本語オリジナルでは、主観的把握がなされており、話者の視点から述べられている。一方で、英語吹替では、you や he などの二人称・三人称名詞を主語に据えて表現している。

(21) [20:18]
〔ホテル街で金髪の男(木村)が陽菜に対して〕
木村：今日からお給料出せるよ。
Kimura：You'll get paid immediately after.

(22) [13:32]
夏美：あー、圭ちゃんから聞いてるよ。新しいアシスタント。
Natsumi：Oh, you're the new assistant. Kei told me about you.

(23) [13:40]
夏美：ああ、やっと雑用から解放されるなーっと。
Natsumi：Finally, he's found someone to do all my grunt work.

この(22)と(23)は、帆高が初めて須賀の会社を訪れた場面からの用例である。いずれも、日本語版では、話者である夏美の視点から主観的把握がなされており、話者である夏美自身は、観察の原点となり言語化されていない。一方で、英語版では客観的把握がなされており、"Kei(he)"を主語に据え、(22)においては話者自身が客体化され、"me"として言語化されている。

3.3.2. 英語:「事態そのもの」 日本語:「事態の当事者へのかかわり」

池上(2006: 171-73)は、次の(24)の用例に言及し、日本語の受け身は「その事態によって自分が被害を蒙っているという意味合い」を表現できるとし、「日本語の話し手のほうがある〈事態〉とその〈事態の当事者への都合の悪いかかわり〉ということを 1 つの文としてまとめあげて表現する趣好を有しているらしいのに対して、英語の話し手にとってはそのように文をまとめあげるという傾向は顕著でない」と述べている。

(24)〔財布を盗まれたことを届け出て〕
Someone stole my wallet.
財布を盗まれました。 （池上 2006: 162）

同様の用例が、本作品においても複数みられる。

(25) [16:25]
帆高：占い師みたいな女の人に、ラノベの設定みたいな話を延々聞かされました。
Hodaka : The so-called psychic went on about mystical stuff that came straight out of a fantasy novel.

(26) [1:00:33]
須賀：突っぱねたが、俺が疑われてる。
Suga : I denied any involvement, but I can tell they still suspect me.

(27) [59:55]
陽菜：私たち、バラバラにされちゃう。
Hina : They're going to separate us.

(28) [1:21:40]
夏美：凪君から電話があったの。陽菜ちゃんがいなくなって、君が警察に連れていかれたって。
Natsumi : While you were at the station, Nagi called. He said Hina had disappeared and that the police had arrested you.

これらの用例においては、日本語オリジナルでは受け身で表現することによって、被害を蒙っているという、事態の当事者へのかかわりが表現されている。一方で、対応する英訳では能動態が用いられている。

日本語の「〈事態〉を〈その事態の当事者へのかかわり〉とあわせて捉え言語化するという傾向」(池上 2006: 173)は、ここまでみた受け身のほかにもみられる。(29)-(31)においては、授受動詞「くれる」を補助動詞として用いることで、「話し手がその事態を恩恵的だと捉えている」(近藤・姫野 2012: 57)ということを表している。

(29) [1:22:25]
凪：あちらは、婦警の佐々木さん。今日一日、俺についててくれるんだって。
Nagi : And that's Officer Sasaki. She's going to be watching over me all day.

(30) [55:47]
萌花：陽菜ちゃん、今日はお天気にしてくれてありがと！
陽菜：こちらこそ。喜んでくれてありがとう。

Moka : Hina, thank you for bringing the sunshine today.

Hina：Thank you. I'm happy you're happy.

次の用例では、日本語の「くれる」の恩恵のニュアンスを、英訳では“help”を用いて再現しようとしている。

(31) [1:14:42]
陽菜：でも、君が私の意味を見つけてくれて
Hina：But you helped me find a reason to live.

授受動詞のほかにも、移動動詞も補助動詞として使われる。次の用例では移動動詞「くる」が補助動詞として用いられている。

(32) [43:25]
須賀：勝手に猫なんか拾ってくるしさ。
Suga：He took in a stray cat without asking.

「くる」が補助動詞として使われる場合、話し手を文中に表現しなくても、その話し手が移動の到着点に位置していることを表す(近藤・姫野 2012: 36)。須賀の運営する会社で寝泊まりしている帆高が猫を拾ってきたことに、須賀自身が言及しているシーンであるが、日本語版では「くる」を補助動詞として用いることで、話し手である須賀のところに帆高が猫を連れてきた、という事態の当事者へのかかわりが表現されている。

3.3.3. 英語：人間中心　日本語：状況中心

国広(1974b: 47)によって指摘された「英語では人間を中心に据えて、その人間が何か活動したり認識したりする形を取っているのに対して、日本語では、そのような人間は背景に後退しており、その場面の状況をとらえて表現するという形を取る」という傾向は、本作品においても複数見られた。

(33) [1:10:10]
帆高：退職金出たからさ。
Hodaka：I got severance pay.

(34) [15:15]
須賀:このあと取材アポがあんだけど、ちょっと試しに話聞いてきてよ。
Suga：She's already got a thing set up. Take along. Take notes.

(35) [44:17]

帆高：テレビに映っちゃって、依頼が殺到しちゃって。
Hodaka：Since she was caught on camera, we've been flooded with requests.

(36) [1:21:40]
夏美：凪君から電話があったの。
Natsumi：While you were at the station, Nagi called.

(37) [43:13]
夏美：仕事ダメだったのかニャ？
Natsumi：Did you get rejected? Meow.

(38) [1:13:05]
陽菜：…きっと、いつもの夏が戻ってくるよ。
Hina：... we'll finally get our summers back.

これらの用例においては、英訳ではいずれも人間を主語に立てているが、対応する日本語では、人間ではなく、「退職金」「取材アポ」「依頼」「電話」「仕事」「夏」が主語となっており、「人間中心」の英語と、「状況中心」の日本語という差異がみられている。

3.4. ゼロ対応

(39) [51:35]
〔店員の三葉が、陽菜への指輪を買った客の帆高に対して〕
三葉(店員)：どうもありがとうございました。
帆高：あの、こういうのって貰ってうれしいと思いますか？

Mitsuha：Here you go. Enjoy.
Hodaka：Thank you. But, uh... do you think she'll like it?

日本では、商品を購入した後の店員の「ありがとうございました」などの挨拶には反応をしないことが多いが、英語圏ではこのような場合には挨拶を返すのが自然である。このシーンでは、帆高が陽菜への誕生日プレゼントとして購入した指輪に対して、本当にプレゼントはこれで良かったのかと不安になっている様子が沈黙で表現されている。帆高は沈黙ののちに、「あの、こういうのって貰ってうれしいと思いますか？」というセリフを発するが、英語吹替ではそのセリフの前に日本語オリジナルにはない "Thank you."という応答するセリフをわざわざ補うことによって、対話を成立させている。

また、次のように、相手のセリフに応答するセリフとして、日本語オリジナルには対応語句のない"I know."などが追加されている用例も見

られた。

(40) [28:10]
帆高：でも、何も証拠が残ってないってのも。
夏美：すぐに消えちゃうんだって。ほら！

Hodaka：… and it's not like they leave behind evidence.
Natsumi：I know. They just instantly disappear. Look.

(41) [1:23:48]
須賀：誰もいませんよ。
安井刑事：いやあ実は、お恥ずかしい話なんですけどね。

Suga：You're not gonna find him down there.
Yasui：Yeah, we know. This is embarrassing but, uh, the truth is….

そのほかにも、日本語オリジナルには対応語句のない、相手のセリフに応答するセリフが追加されているものがある。

(42) [5:53]
須賀：何か悪いね。ごちそうになっちゃって。
帆高：いえ、そんな。こちらこそ助けて頂いて。
須賀：ホント、さっきは危なかったね。

Suga：Thanks for treating, by the way.
Hodaka：Oh, don't mention it. It's the least I could do since you saved me.
Suga：Oh, I did, didn't I? It was a close one, too, huh?

日本語版では「こちらこそ助けて頂いて」という帆高のセリフの「助けた」という点に関しては、次のセリフで言及していないが、英語版においては、"you saved me"という帆高のセリフに応答するセリフとして、新たに"Oh, I did, didn't I?"が付け加えられている。

(43) [1:29:15]
須賀：お前、自分が何してるかわかってんのか！？
帆高：陽菜さんが消えたんです。俺のせいなんです。

Suga：Do you have any idea what you're doing?
Hodaka：You don't get it. Hina's gone! And it's my fault.

この例においても、日本語版では「お前、自分が何してるかわかってんのか！？」という須賀の問いかけに対して、直接的な返答はしていない。一方で、英語版では新たに日本語オリジナルには無い“You don’t get it.”(分かってないのはあなただよ)というセリフを追加することで対話を成立させている。

最後にもう一例、「ゼロ対応」の興味深い用例を見てみたい。用例の考察に入る前に関連する事項を整理する。本作品において、陽菜が帆高に対して年齢を偽っているという点は物語の重要な要素となっている。陽菜は 16 歳の帆高に初めて会ったとき、本当は 14 歳であったが、あと一か月で 18 歳になると嘘をつく。つまり、嘘ではあるものの、帆高は陽菜を年上と思い込んでいるので、日本語版では帆高は「陽菜さん」と呼び、一方で陽菜は「帆高」と呼ぶ。作中で、帆高が常に「陽菜さん」と呼ぶことで、日本語版の視聴者にとっては二人の上下関係が常に意識される。その分だけ、映画の後半において、警察に捕まった帆高が、陽菜の方が年下だったことを警察から初めて知らされ、「俺が一番年上じゃねえか」と泣きながら言う場面のインパクトも大きなものとなる。その後、本来の年齢を知ってから改めて陽菜に会うシーンでは、劇中で初めて呼び捨てで「陽菜」と呼びかける。

しかし、英語版では、お互いに “Hodaka” “Hina”と呼びあい、結果として、日本語の「帆高(呼び捨て)」「陽菜さん(さん付け)」に感じられる響きが失われている箇所もみられる。

次の用例では、陽菜のセリフに「敬語」という単語が使われており、翻訳の際は工夫が求められる箇所である。

(44) [25:33]
陽菜：年上には敬語ね。
Hina：So you should treat me with respect.

日本語の「敬語」という単語を、そのままでは英訳するのが難しいので、「敬意をもって私に関わってね」という風に訳を工夫している様子がみられる。

「日本語の非対話」において、英語吹替で対話が成立するように応答するセリフが追加されることがあることをここまで見てきたが、そうしたオリジナルにはないセリフを追加する際に、英語話者が感じる「非対話」の違和感を解消することに加え、日本語オリジナルの陽菜と帆高の上下関係の再現も試みている用例がみられた。

(45) [53:05]
〔3 人で公園のベンチに座りながら〕
須賀：やっぱ青空っていいよな。

陽菜：須賀さんて、帆高の上司だったんですね。
須賀：そう。かつ命の恩人。てかお前、なんで呼び捨てにされてんの？
帆高：陽菜さんのほうが 2 つ年上だし。

Suga: There's nothing more gorgeous than a beautiful, clear sky.
Hina: I concur. I take it you're Hodaka's boss, then?
Suga: Yep. I also saved his life. Hey, does your friend always speak so formally?
Hodaka: Huh? Well, Hina is a whole two years older than me.

英語では、ファーストネームで呼ぶのは普通の事なので、日本語版の「呼び捨て」という箇所は英語版では意味が通らないことになってしまう。ここで注目したいのが、本来の日本語のセリフにはない "I concur."(同意します)というセリフが加えられていることである。

ここまで見てきたように、日本語において対話が成立していない箇所は、英語話者にとっては不自然に感じられ、応答するセリフが付け足されることがある。これまでの用例と同様に、日本語オリジナルのままでは対話が成立していない不自然さを解消するために、応答するセリフとして"I concur."を追加したと考えられる。ただし、ここでは、例えば agree などのより一般的な単語ではなく、concur という堅い単語で訳されている点にも注目したい。つまり、今回の例は、日本語オリジナルにはない文を加えることで、英語話者の感じる「非対話」の不自然さを補っているだけでなく、その際にあえて堅い響きを持つ concur という単語を選択することで、帆高と陽菜の上下関係のニュアンスを表現しているのである。この箇所は次のように整理できる。

日本語版
陽菜が「帆高」と呼び捨てをする→なんで呼び捨てなのか？→陽菜の方が年上だから

英語版
陽菜が堅い単語(concur)を使う→なんで改まった話し方(speak formally)をしているのか？→陽菜の方が年上だから

4. まとめ

本論では、『天気の子』においてみられる日英の翻訳を比較し、そこにみられる差異を調査した。その結果、「①連帯から独立訳へ」「②スピーチアクトの対照」「③事態把握の違い」「④ゼロ対応」という枠組みで説明ができる用例が本作品においても複数みられることが明らかとなった。アニメの英語翻訳におけるこのような「文化意訳」に注目をする

ことは、日本語と英語におけるコミュニケーションの取り方の差異を知る効果的な方法であると言えるだろう。

参考文献

池上嘉彦 (1981)『「する」と「なる」の言語学』大修館書店.

池上嘉彦 (2006)『英語の感覚・日本語の感覚―〈ことばの意味〉のしくみ』NHK 出版.

池上嘉彦 (2007)『日本語と日本語論』筑摩書房.

池上嘉彦 (2011a)「日本語と主観性・主体性」澤田治美（編）『ひつじ意味論講座 主観性と主体性』ひつじ書房. 49-67 頁.

池上嘉彦 (2011b)「日本語話者における〈好まれる言い回し〉としての〈主観的把握〉」『人工知能学会誌』第 26 巻, 第 4 号. 317-22 頁.

池上嘉彦 (2020)「事態把握」池上嘉彦・山梨正明（編）『認知言語学 I』ひつじ書房. 1-22 頁.

井上逸兵 (1999)『伝わるしくみと異文化間コミュニケーション』南雲堂.

井上逸兵 (2015)『グローバルコミュニケーションのための英語学概論』慶應義塾大学出版会.

井上逸兵 (2021)『英語の思考法―話すための文法・文化レッスン』筑摩書房.

国広哲弥 (1974a)「人間中心と状況中心―日英語表現構造の比較」『英語青年』1974 年 2 月号. 688-90 頁.

国広哲弥 (1974b)「日英語表現体系の比較」『言語生活』1974 年 3 月号. 46-52 頁.

近藤安月子・姫野伴子(編) (2012)『日本語文法の論点 43』研究社.

篠原有子 (2018)『映画字幕の翻訳学』晃洋書房.

嶋津拓・鮮于媚・蔡梅花・松本匡史 (2019)「人格の入れ替わりを扱ったアニメで使用される人称代名詞はどのように「翻訳」されるのか―『君の名は。』の外国語版字幕を事例として」『ことばと文字』第 12 号. 122-34 頁.

嶋津拓・鮮于媚・蔡梅花・松本匡史 (2020)「日本語の「役割語」と「発話キャラクタ」はどのように「翻訳」できるのか―アニメ『君の名は。』の外国語版字幕から考える」『埼玉大学日本語教育センター紀要』第 14 号. 3-14 頁.

新海誠(監督) (2020)『天気の子』Blu-ray コレクターズ・エディション, Blu-ray, 東宝.

田中誠 (2021)「映画『天気の子』の翻訳研究―英語教育の視点から」『長

崎国際大学教育基盤センター紀要』第 4 号. 45-53 頁.

保坂敏子・島田めぐみ・伊藤誓子 (2019)「日本映画の字幕における同化翻訳―『君の名は。』と『東京物語』の比較分析から」『東アジア日本語教育・日本文化研究』第 22 号. 171-93 頁.

保坂敏子・島田めぐみ (2022)「日本アニメの字幕翻訳における受容化の比較分析―文化間コミュニケーションを探る」『ヨーロッパ日本語教育』第 25 号. 263-74 頁.

安井寿枝 (2021)「アニメキャラクターからみる翻訳についての一考察―英語版『千と千尋の神隠し』をケーススタディとして」『研究論集』第 114 号. 39-58 頁.

山田健太郎 (2004)「英語版アニメ作品に見る翻訳の問題 :『千と千尋の神隠し』の場合」『県立長崎シーボルト大学国際情報学部紀要』第 5 号. 195-205 頁.

山田健太郎 (2005)「英語版アニメ作品に見る翻訳の問題 2 :『となりのトトロ』の場合」『県立長崎シーボルト大学国際情報学部紀要』第 6 号. 273-84 頁.

Adachi, R. (2012) *A Study of Japanese Animation as Translation: A Descriptive Analysis of Hayao Miyazaki and Other Anime Dubbed into English*. Dissertation.com.

Austin, J. L. (1962) *How to Do Things with Words*. Oxford University Press.

Brown, P. and S. C. Levinson. (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge University Press.

Searle, J. R. (1969) *Speech Acts: An Essay in the Philosophy of Language*. Cambridge University Press.

Shinkai, M. (2020) *Weathering With You*. Blu-ray, Shout! Factory.